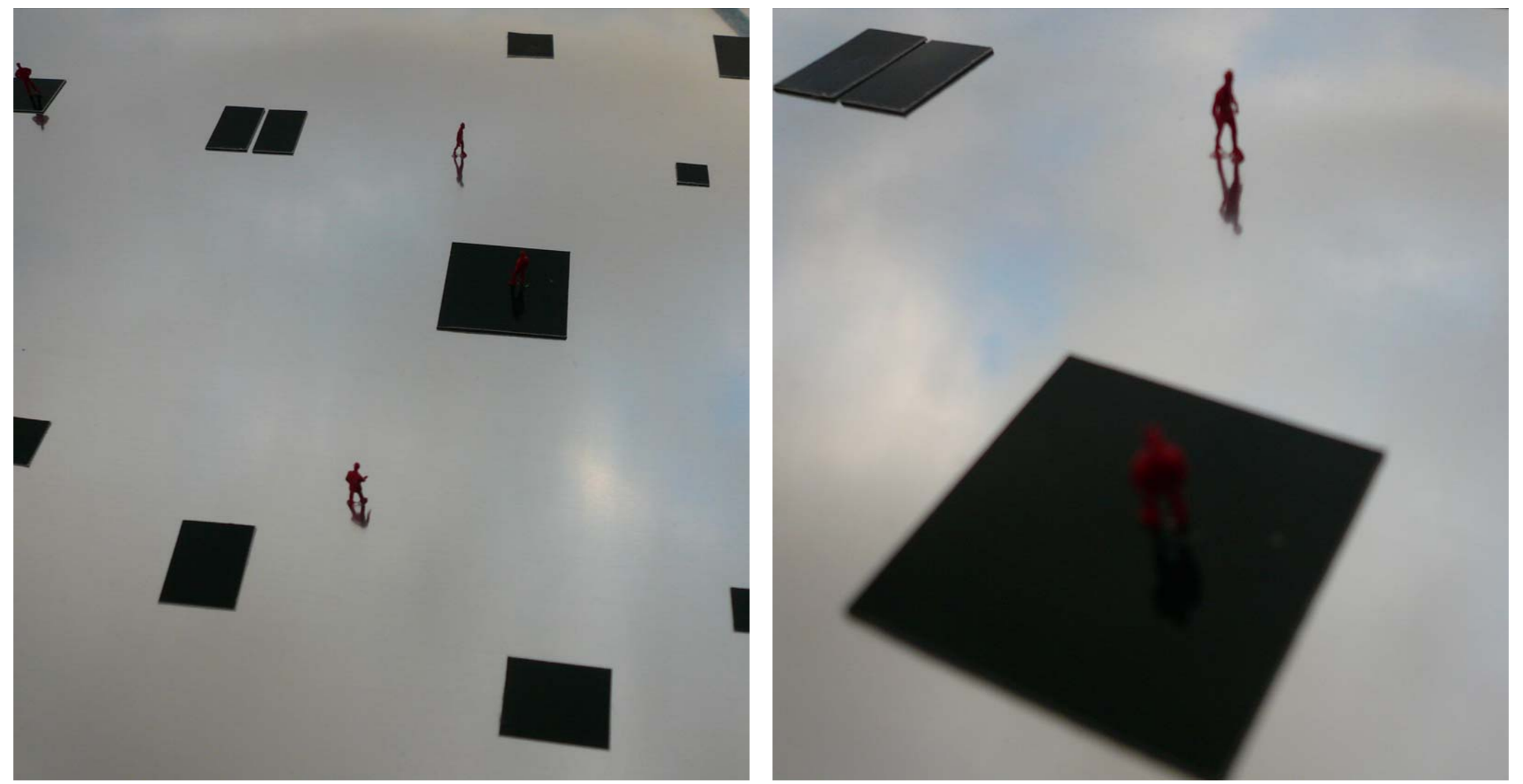
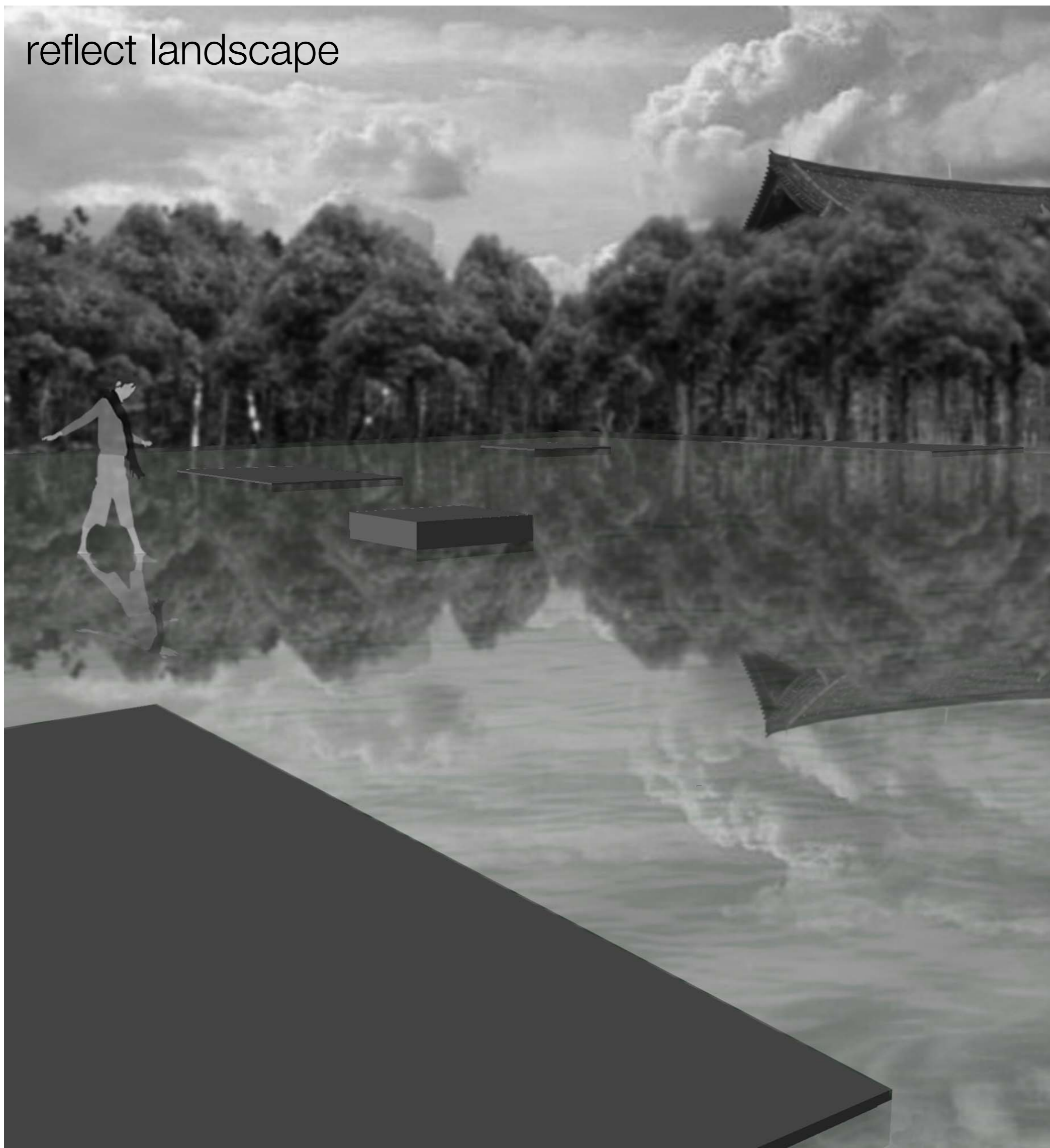


reflect landscape



敷地について

奈良はかつて、平城京が置かれ、都として栄えた国であった。当時に作り出された数々の貴重な文化遺産は現在においても、数多く存在し、町並みも大きくは荒らされることなく保存され続け現在に受け継がれている。今回の設計敷地もまた東大寺を始め、数多くの文化遺産が残されている場所に取り囲まれるように位置する場所であり、川や木々などの自然も多く存在する。また、敷地の下には遺跡が埋まっており、現在の状況ではその様子が伺うことが不可能である。

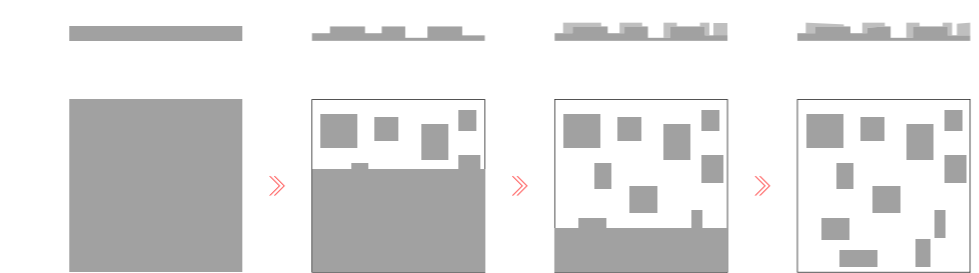
遺跡について

奈良時代以前に行われていた生活の痕跡である遺跡が奈良で多く発掘されている。奈良は平城京として栄えた時代の背景が現在に色濃く残されているが、古都の魅力だけではなく、奈良時代以前の文化があった背景も重要な文化遺産である。

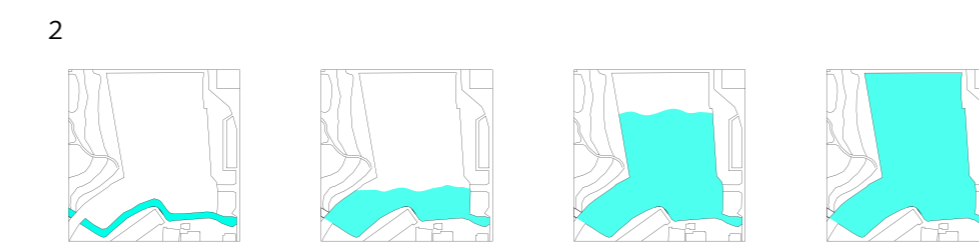
concept

現在の奈良は今年で遷都 1300 年が経ち、様々な景観の変化を経て、現在に至った。しかしその長い年月の中で奈良の空は唯一変わることがなく、また、1300 年間の奈良を見続けてきたものである。そこで、今回提案するのは奈良の空を歩くランドスケープである。1300 年間変わることのなかった奈良の空を、地面に投影させることにより、奈良の歴史を感じさせ、1301 年目から始まる新しい歩みを踏み出していくことができるのではないかと考えた。また敷地に隣接している古城川の水を敷地内に取り入れ、その川の自然を直接肌で感じながら奈良の歴史的背景を踏みしめていく。現在私たちが日常的に履いている靴を脱ぎ、足の感覚を伝えて感覚的情報を取り入れる。また敷地には遺跡が埋まっており本質的な「奈良」を感じるには、裸足になり直に足の裏側を伝い、今まで見てきた風景の奈良を感じ取ることができるのではないかと考えた。

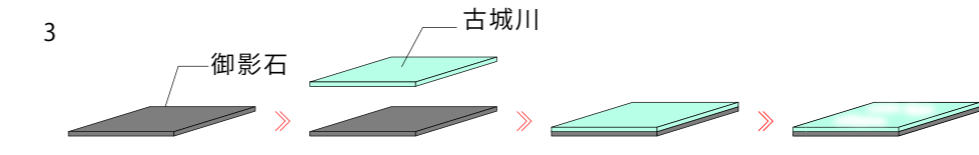
diagram



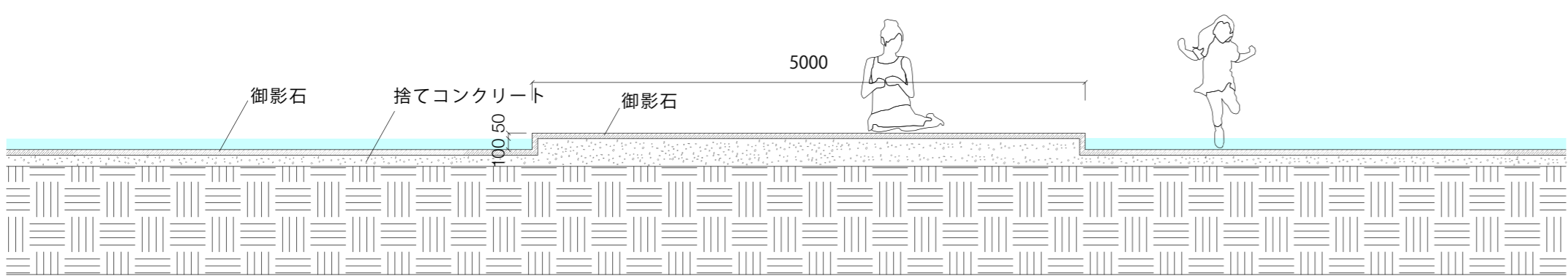
敷地の下には遺跡が埋まっており、その遺跡を彷彿させる形態を用いる。形態の大小の決定はランダムに決めていき、少人数で利用できる大きさから、大人で利用可能な大きさである。また高さとしては 40 cm を限度とし、敷力所に勾配もつけていくことにする。



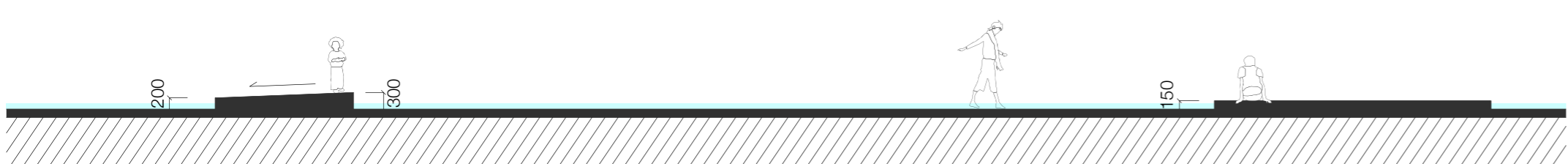
設計敷地に隣接する古城川の水を敷地内に引き込んでくる。水を引き込むことで裸足になり、水の温度を直接感じることにする。水深は 10cm である。



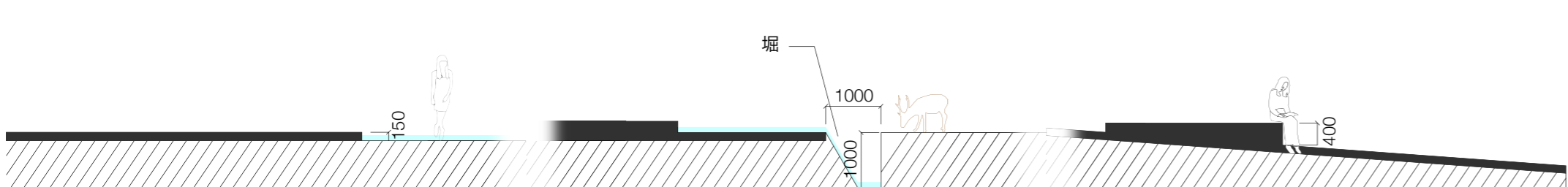
素材として黒御影石を使用する。黒の素材を使用し、その上に川を引き込んでくることにより、水が反射をし、周りの風景、奈良の空を映し出すことが可能になる。



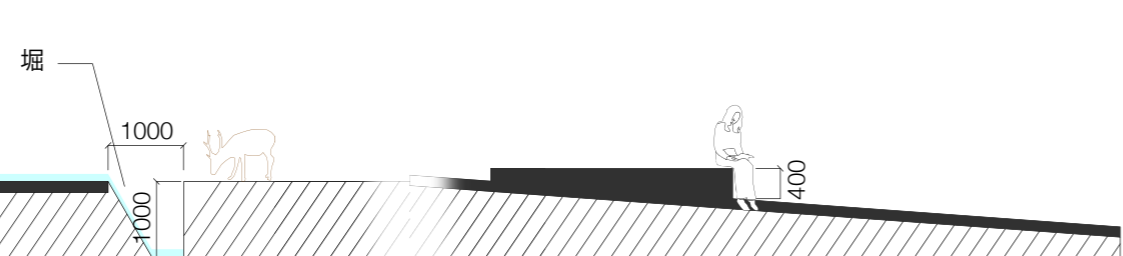
A-A section scale 1:50



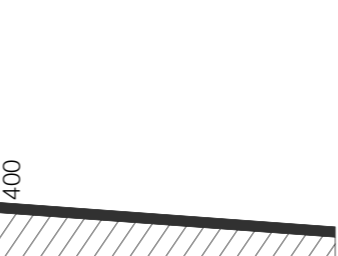
B-B section scale 1:100



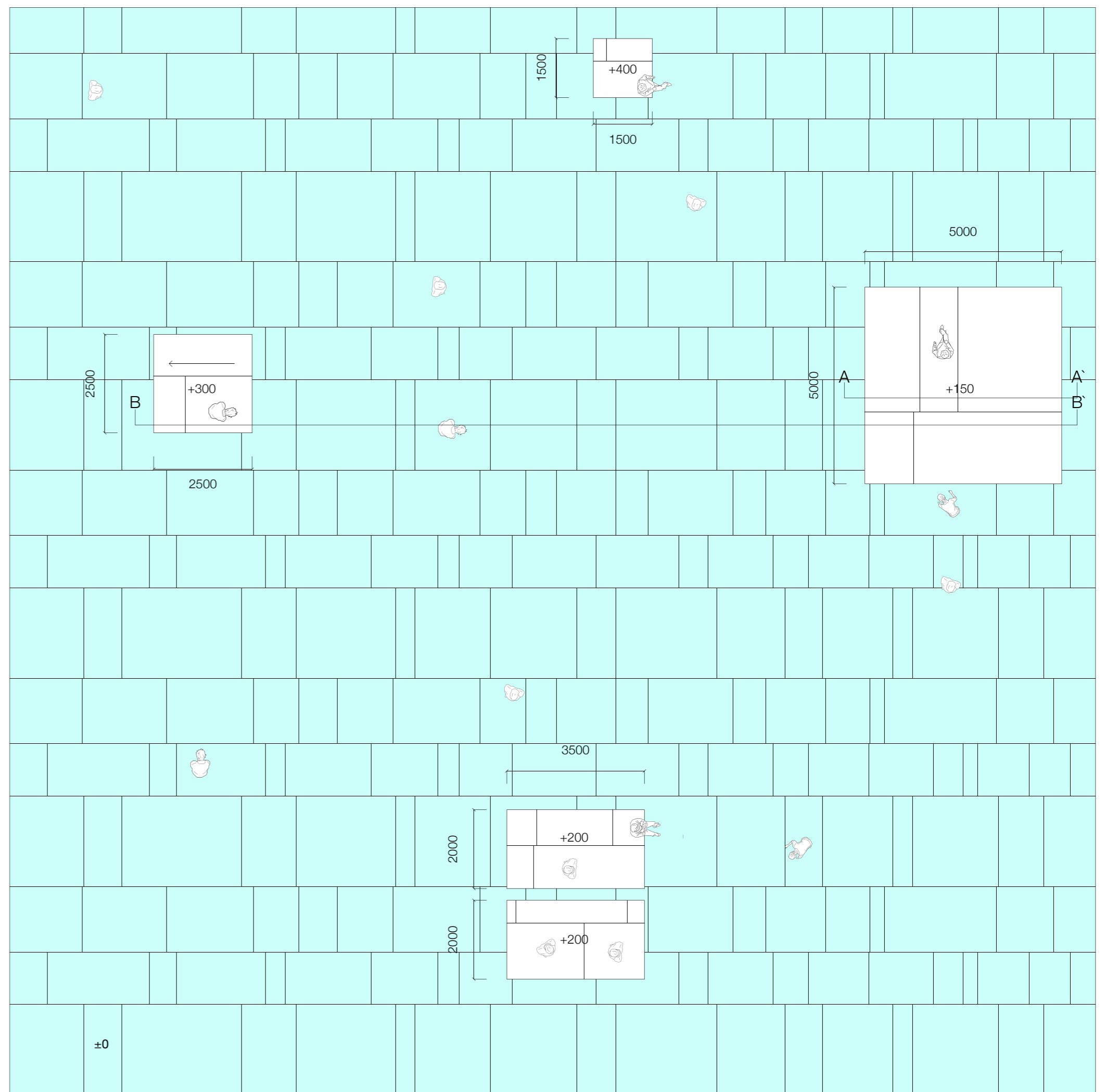
C-C section scale 1:100



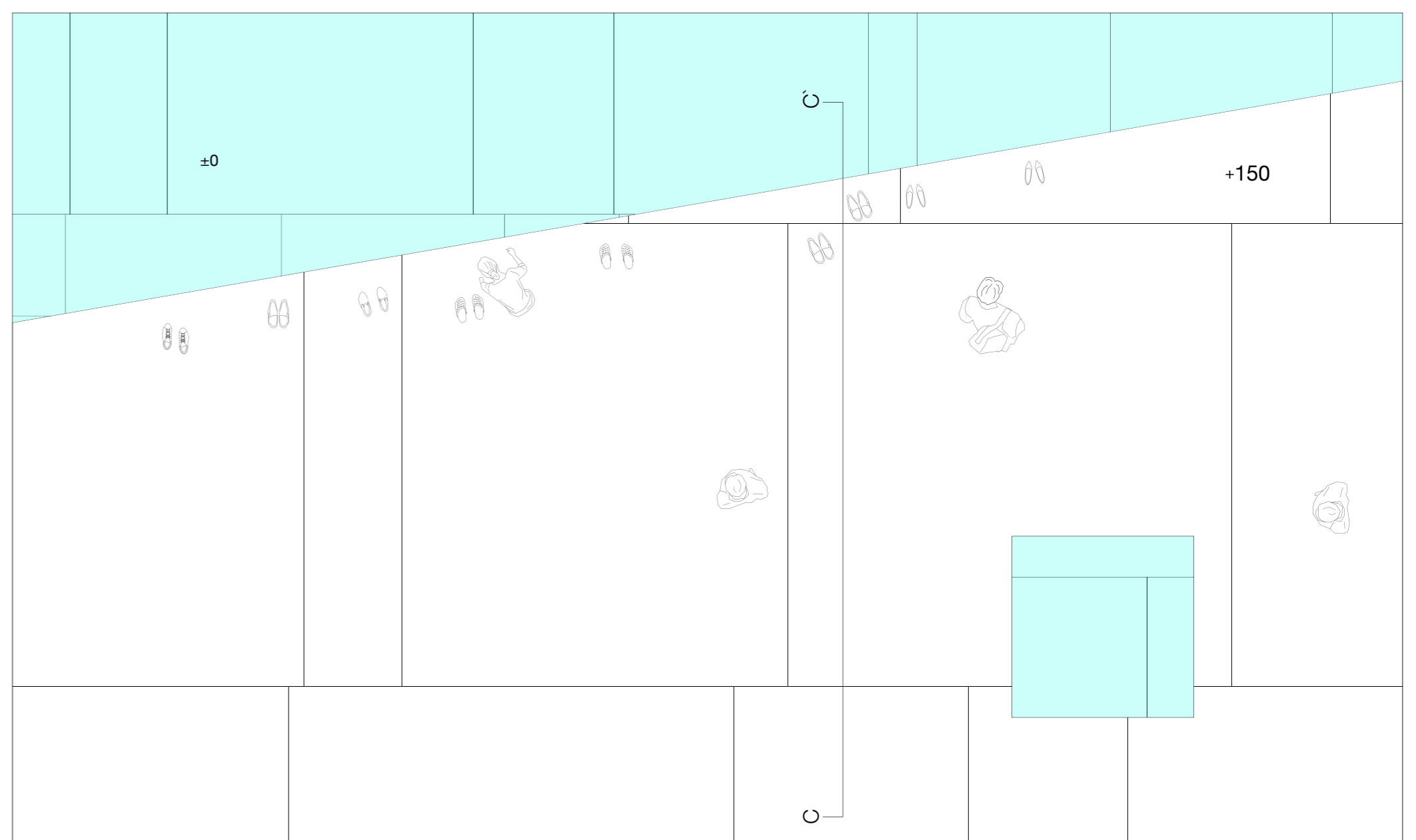
D-D section scale 1:100



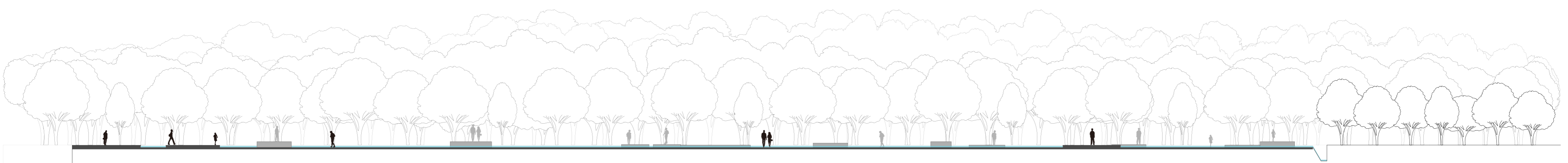
E-E section scale 1:100



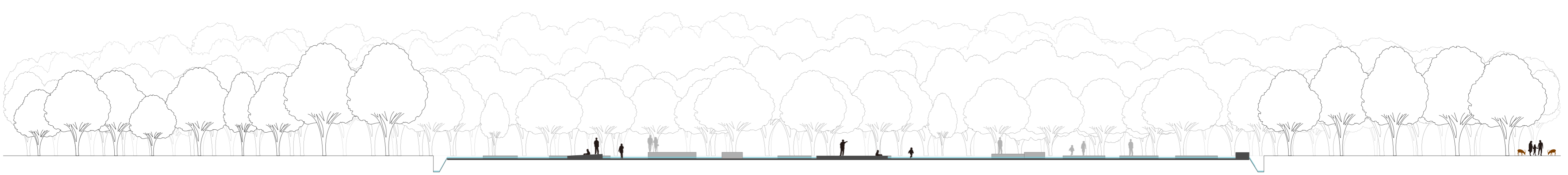
plan scale 1:100



plan scale 1:50



F-F section scale 1:200



G-G section scale 1:200